

令和2年度 大謝名小学校の取り組み

1 研究主題

英語に親しみ進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
～言語活動の工夫を通して～

2 研究主題設定の理由

近年、グローバル化社会が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力の向上が求められている。学校で行われる外国語活動においても、従来の「慣れ親しむ」から、ある程度の「習得・活用の力」を育成する必要がある、カリキュラムの再編成と指導の準備を行わなければならない。

本校では、これまでも歌やゲーム、簡単な会話練習、ICT や図書などを取り入れ、幼稚園を含む全学年の児童が楽しく活動できる工夫に努めてきた。その結果、児童の多くが「英語の授業が楽しい」と答えており、意欲的に授業に取り組む様子が見られた。しかし、新学習指導要領の先行実施に伴い、これまでの「説明・練習→コミュニケーション活動」という流れではなく、「コミュニケーション活動の中で、自力で既習事項を思い出して使いながら、自然に習得していく」ための授業づくりへと変えていく必要がある。「楽しい」だけでなく、目的や場面、状況に応じて、伝えたい内容に即した伝えるための英語表現の習得を図る工夫が課題となっているのである。

そこで、今年度は、低学年からの既習事項を系統的・総合的にスモールステップで積んでいき、言語活動の工夫を通して、相手に配慮しながら工夫して伝え合おうとする児童の育成を図りたいと考え、上記の主題を設定した。

ゲームや歌、単語練習で終わるのではなく、歌詞の一部を自分に関することに置き換えて表現したり、相手の反応を見て、ジェスチャーなどを使い工夫しながら Smalltalk を行ったりする活動を通して、自分の思いを伝える力を育てていきたい。また、伝え合う活動を通して、相手を理解し、互いに認め合うコミュニケーションの資質・能力を高め、主体的・対話的な深い学びを目指していきたい。

3 研究の主な内容

(1) 目標

- ①外国語活動を通して、自他の文化や生活習慣などに対する興味・関心・意欲の育成を図る。
- ②外国語活動を通して、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。
- ③外国語活動を通して、コミュニケーション能力を育て、他者を理解しようとする態度を育成する。

(2) 指導方針

- ①児童の実態に応じ、系統的な年間指導計画の作成を行う。
- ②単元終末段階の児童に臨む具体的な姿のイメージをもち、単元を見通した課題設定をする。
- ③4月に各学年で外国語活動の進め方の共通理解を図り、ALT や JTE とのティームティーチングの仕方などを確認する。
- ④学年会の時間に、ALT/JTE と HRT による次週の打ち合わせを毎週行い、授業の内容と進め方を確認し、学年の共通理解を図る。
- ⑤全学年の児童が ALT や JTE と交流するために、前半（4月～10月中旬）と後半（10月中旬～3月）で担当学年を交換して指導を行う。
- ⑥教材・教具・ワークシートの工夫を図る。

- ⑦授業開始、終了の黙想、グリーティング、学習ルール確認などの授業の流れを全学年で統一して行う。
- ⑨多様な学習活動を組み合わせた授業づくりとペアやグループなどの学習形態の工夫を図る。
- ⑩ICT 機器を活用した言語活動の充実を図る。
- ⑪毎時間(低学年は学期ごと)振り返りカードを書く時間を設け、児童が学習の見通しを立てたり、振り返ったりできるようにする。
- ⑫委員会活動や行事において英語アナウンスを取り入れ、英語表現に触れる機会を設定する。
- ⑬クリスマスやハロウィンなどの異文化の行事に触れさせ、児童の視野を広げるとともに、異文化を尊重する態度を育てる。

4 各学年の目標

学年		目標	題材
低学年	触れる・慣れる	・歌、リズム遊び、ゲームなどの活用を通して、英語のリズム、イントネーションを五感で感じ取り、楽しく英語に触れたり、基本的な英語表現に慣れる。 ・英語をよく聞き、大きな声でまね、意思表示がはっきりできる。 ・外国のことに興味・関心を持ち、進んで知ろうとする。	・挨拶・自己紹介・体調・曜日 ・天気・数・色・学用品・野菜 ・動物・虫・体の部分・好きな物 ・嫌いな物・ハロウィン ・日本の遊び・外国の遊び・ ・クリスマス・英語の歌
中学年	慣れる・親しむ	・歌・リズム遊び、ゲームなどの活動を通して、英語のリズム、イントネーション、基本的な英語表現に慣れる。 ・英語であいさつしたり、簡単な英語の質問に進んで答えようとする。 ・聞きたいこと、言いたいことを中心にコミュニケーションを図ろうとする。	・挨拶・自己紹介・体調・月 ・曜日・天気・数・果物・野菜 ・学用品・色・動物 ・アルファベット・体の部位 ・動作・遊び・衣類・生活日課 ・英語の歌
高学年	親しむ・使う	・日常の生活場面や状況に応じた英語表現を聞いたり、使ったりする活動を通して英語に親しむ。 ・相手の話す英語をよく聞き、伝えたいことを簡単な英語で話すことができる。 ・生活や考え方を尊重しつつ、コミュニケーションを図ろうとする。	・挨拶・自己紹介・行事・月 ・日付・感情・飲食物・スポーツ ・生き物・色・形 ・アルファベット・学用品・教科 ・曜日・職業・動作・位置・場所 ・値段・施設・道案内・世界の国 ・世界の童話・動詞の過去形 ・can・三人称・英語の歌

5 英語活動の実践の様子

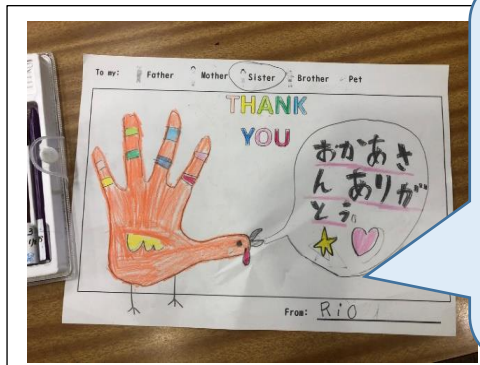
(1) 計画案

Topic: My Summer Vacation (夏休みの思い出) 児童の思い出を絵日記に伝えよう。					Last update 2020/7/28	
令和2年度 第4学年 外国語活動単元計画案 v1.0 OMS 6 lesson 4 - 7時間	Lesson 20・第2時 - 8月8日 @各教室				Lesson 21・第3時 - 8月21日 @各教室	
活動	Lesson 19・第1時 - 8月14日 @各教室				Lesson 22・第4時 - 8月25日 @各教室	
挨拶・挨拶の活動 1 はじめのあいさつ Opening, Questions, Rules, Greeting	1 はじめのあいさつ Opening, Questions, Rules, Greeting				1 はじめのあいさつ Opening, Questions, Rules, Greeting	
2 First Activity (帯活動) Phonics Teachers Talk	2 【Small Talk】先生の夏休みの思い出① 5min HRT: Hello, everyone. Did you have a good time in your summer vacation? (写真を見て) I went to ~. I enjoyed ~. Look! I ate a ~. It was delicious. 3 めあて 夏休みの思い出を英語で書くことばをよ。				2 【Small Talk】校長先生の夏休みの思い出 5min 写真を見て、Who is this? ゲームをする	
3 めあての確認	3 めあて 夏休みの思い出を英語で書くことばをよ。				3 めあて 夏休みの思い出について、友達にインタビューしよう。	
4 Review or Input	4 a) 【Let's Watch】 18min P44.45 登場人物は5人は夏休みに何をよめたか、映像を見てよ。				4 a) 【Activity】P48 5min 前時と違うペアで夏休みの思い出を練習する。	
5 Main Activity	5 a) 【Let's Say it Together】P44 2min What did you do? b) 【Let's Think】P45 5min あなたが伝えたい夏休みの思い出は何かな? c) 【Let's Write】 5min ワークシート③ enjoyed ~.				b) 【Let's Say it Together】P44 2min 5 a) 【Activity】P49 25min 短いやり取りの音声を聴き、参考にしてペアで夏休みの思い出について尋ねよう。 長いやり取りの音声を聴いて、友だちのことを言い、対話の要領を理解してペアで練習する。 夏休みの思い出を機能的な友達インタビューし、分かったことをワークシートに書く。	
6 めあての確認	6 めあての確認 ①夏休みの思い出を話している場面をみて「音声を聞いて」その内容を聞き取っている。*行動観察 ②夏休みの思い出を英語で書いて、大きな紙に自分の得意な絵を描いておいている。*行動観察				b) 【Let's Write】 5min ワークシート④ I went to ~. ワークシート⑤ It was ~. 評価: ①夏休みの思い出を英語で話している場面をみて、内容を聞き取っている。*行動観察 ②夏休みの思い出を英語で書いて、大きな紙に自分の得意な絵を描いておいている。*行動観察	
7 次時の予告	7 次時の予告				7 終わりのあいさつ	
終わりのあいさつ	終わりのあいさつ				終わりのあいさつ	

(2) 活動の様子

①低学年：(触れる) 英語の聞き取りに重点を置いた授業展開

1 年生



thanks giving
ありがとうカードをつくろう！
外国の行事に触れ、外国の文化や考え方への理解を深める。



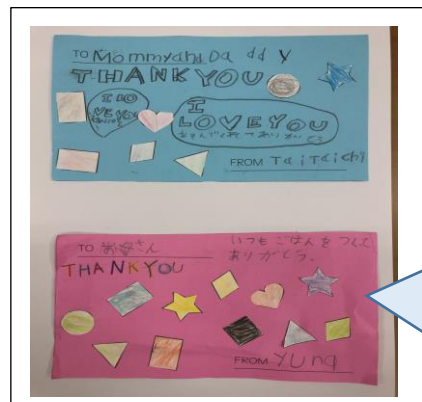
2年生



学んだ英単語
定着させるた
めにゲームや
クラスで身体
を動かしての
復唱を繰り返
し行う。

②中学年（慣れる）英語の聞き取りと簡単な会話に重点を置いた授業展開

3年生



学習した英語
を使って、家族
に「ありがとう
カード」を作成
してプレゼント
することで、
英語が伝わっ
たという達成
感を味わわせ
る。



4年生



「話せた！」とい
う成功体験の積み
重ねで児童に自信
をもたせ話したい
という意欲を高め
る。

③高学年（親しむ・伝え合う）英語の聞き取りと会話に重点を置いた授業展開

5年生



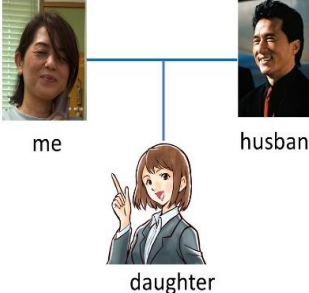
インプットだけ
ではなく、アウト
プットの場を多く
もつことで、児童
に確実に英語の力
が付き、次の単元
への期待感や意欲
を高めることが
できる。

6年生



○高学年では、発表する児童に偏りがみられる傾向にあったため、児童が自主的に発表がしたくなる授業の工夫として、授業の導入では身近な事柄を使って、**SmallTalk** を行った。児童の生活に即した題材を扱うことで、児童が自主的に発表することができた。

○5年生では「**Id like pizza**」の単元で、担任の家族構成と家族の好きな食べ物を紹介し、既習事項の確認と本時の活動につなげる **SmallTalk** を行った。好きな食べ物のセットメニューを提示することで、本時の「自分の好きな食べ物のメニューを考えよう」というアクティビティに繋げた。児童は楽しそうに話を聞いていて、授業でのアクティビティに意欲を高めていた。



me husband daughter

これからどのような話題を扱うのか、どのようなことを学ぶのかわかり、学習への期待感を高める。



She likes shrimp tempura.
The set menu is from ¥ 1, 4 0 0 to ¥ 8, 8 0 0.

○6年生では「**My Summer Vacation**」の導入として「**Who am I**」クイズを行った。夏休みの思い出を紹介し、どの先生のことだろうと予測することで、集中してリスニングし、意欲的に発表しようとしていた。普段発表に消極的な児童も自分から挙手する姿が見受けられた。児童に身近なことを教材として使うことで、児童の興味関心だけではなく、伝えたいという思いを高めることができた。



**Who am I?
Quiz**
My Summer Vacation
August 2020

場面や状況から意味を推測してリスニング力をつけける。



I enjoyed home with my cat.
He's name is Maro.



**I ate a dragon fruit,
from my garden.**

既習事項を用いた **Small Talk** を行うことで、学習したことを使ってコミュニケーションをとろうとする態度を養う。

I'm the school Principal.



6 成果と課題

(1) 成果

- 週一回のミーティングを定例で行うことで、共通確認ができてよかった。
- ALT・JTE による教材教具の準備が整っているので、スムーズに授業が進められ、子ども達が楽しそうに授業を受けている。また、英語の単語や文章などが分かったという児童が増えてきた。
- ALT と JTE の担当する学級を、学期の途中で変更することで、学習スタイルが変わり、児童の意欲が向上した。
- 子どもの興味をひく教材の工夫や ICT の活用により、児童が興味関心を持って楽しく学習することができた。
- 児童にとって身近な題材を用いた Small Talk を行うことで児童の意欲が高まった。
- 英語で話しかけたら、英語で返したり返そうとしたりする児童が増えた。
- ほとんどの児童がリスニング力が向上した。
- 授業のまとめや学期ごとに振り返りシートを書かせることにより、評価に活用することができた。

(2) 課題と改善案

《低学年》

- 単元ごとの評価が難しい。
 - ・単元の最後に時間を確保し、一人ずつ一問一答形式でインタビューを行い、評価していく。
- 形成評価の内容が毎年同じ。
 - ・従来の評価だけではなく、学習した内容を加えた評価の実施も行う。

《中学年》

- 英語習得に苦手意識をもっている児童が積極的に授業に参加できない場面がある。
 - ・児童にとってより身近な教材(絵本、歌、動画)を用いて楽しく活動できるようにする。
- 学んだフレーズを活用する場面が少ない。
 - ・授業のアクティビティにゲームを入れて、意欲を高める。
 - ・日常生活でも学んだフレーズを活用できるように、場面にあったフレーズ集を作成し、教室に掲示する。
 - ・HRT が日常で学んだフレーズを使う。
(What time is it now? Today is Monday など)

《高学年》

- ペーパーテストの内容が実態と合わず評価が難しい。
 - ・テスト以外での評価の場面を毎単元設ける。児童がどのようなことを身につければよいか見通しをもって学習するために単元の最初に CAN DO LIST を作成して配布する。
- 書く力(単語)が弱い。
 - ・授業の中で書く時間を取り入れる。また、書く力の評価基準を明確にする。
 - ・ローマ字とアルファベットの違いを意識して教える。
- 評価の内容を次の単元の学習に生かせなかったことがあった。
 - ・ALT や JTE とともに評価の内容を共有し、落ち込みのあったところを重点的に復習する。また、日常でも学習した単語を活用する場を設ける。